

KOSEN の窓

という目標でモデルを作成し、形のあるものとして表現しています。そして、今は三川坑跡に保存されている「炭鉱電車」、正確に言うと「電気機関車」について調べ、皆さんにその技術を知ってもらうことを考えました。

3Dプリンターでボディを作り、石炭を運ぶトロッコには発泡スチロールの石炭を作り、5台の中で一つだけ本物の石炭を載せました。それに気付いてくれるのは、

「昔、乗って遊びに行きよったねー」という会話が弾みます。

どちらの車両も、おそらく他にはないものだ

ちを見守る大人たちは、思います。遊びを通して、地元の炭鉱技術に興味を持ってもらえるきっかけとなるように、これからも取り組んでいきます。

遊びながら地元の技術を学ぶこと

②

有明高専創造工学科准教授

篠崎 烈

大牟田、荒尾両市が持つ世界遺産「三池炭鉱」の技術を調べ始めて10年がたちました。最初は、三池港の築港100年の年に蘭門の技術模型を製作。荒尾市制70周年では、荒尾駅前に万田坑の第二立て坑やぐらのミニメントを設計させていただ

らえるように取り組んでいるところ。その一つが、子どもたち

に人気の電車玩具「プラレール」による紹介です。子どもは興味を持つ

きました。どの取り組みでも、調べて分かったことを皆さんに知ってもらいたい、

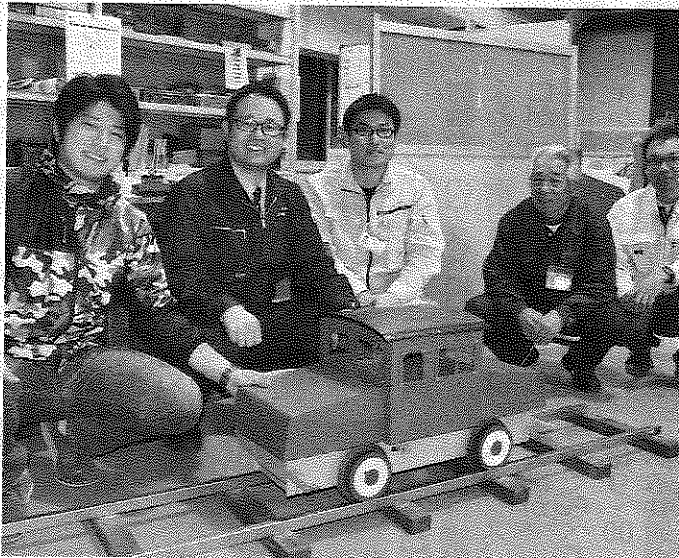
ち人気の電車玩具「プラレール」による紹介です。子どもは興味を持つ

たことをきっかけに、深く学びたいと思うものです。身近にある玩具だからこそ振り向いてくれる

らえるように取り組んでいるところ。その一つが、子どもたち

に人気の電車玩具「プラレール」による紹介です。子どもは興味を持つ

たことをきっかけに、深く学びたいと思うものです。身近にある玩具だからこそ振り向いてくれる



学生と教職員が力を合わせて地元技術のものづくり

有明高専